

# 第4回世界水フォーラム「水と交通」セッション 開催報告



研究第三部 研究員 後藤 勝洋

## 1. はじめに

2006年3月16日～22日にかけて、メキシコシティで「第4回世界水フォーラム」が開催された。世界水フォーラムとは、多様な水問題について議論を深め、その解決に向けた宣言文をとりまとめる国際会議である（3年に1回、国連水の日（3月22日）を含む期間に開催）。2003年3月に日本で開催された第3回世界水フォーラムでは、水問題の議論の一つとして「水と交通」が主要テーマに取り上げられ、環境負荷の小さい内陸水運（内航海運を含む）の重要性が認識された。第4回世界水フォーラムにおいても、参加各国の優良事例を中心に情報交換を行い、内陸水運の更なる発展を図ることを目的として、「水と交通」セッションを立ち上げた。

当センターは「水と交通」セッションの事務局として、第4回世界水フォーラムに参加した。本報告は、3月17日に開催された「水と交通」セッションに関するものである。

## 2. セッションプログラム

「水と交通」セッションのプログラムは以下の通り。

### ①基調講演

講演1：「2回目のパーフェクトストーム メキシコ湾、2005年夏」

Raymond Butler氏 ガルフ・イントラコースタル・カナル協会局長

講演2：「商業用水運と経済成長に関する考察」

Bruce Lambert氏 国際航路協会米国支部 秘書官

### ②事例報告

報告1：「メコン河の航行改善による地域経済協力」

Sin Chhay氏 メコン河委員会 舟運プログラム・オフィサー

報告2：「京仁運河プロジェクトの実施計画調査とマスタープラン」 Jae-Heung Yoon氏 韓国水資源公社水資源設計チーム チームリーダー

報告3：「日本の内陸水運」

栗城 稔氏 国土交通省国土技術政策総合研究所 河川研究部長

報告4：「米国における内陸水運の利用について」

Robert A. Pietrowsky氏 アメリカ陸軍工兵隊 水資源研究所 所長

### ③パネルディスカッション

座長：石渡幹夫氏 独立行政法人 国際協力機構

上記講演者及び 池田龍彦氏 横浜国立大学 教授

## 3. 講演の概要

各国の講演、報告を通して、内陸水運に関する優良事例やその発展に向けた課題等が提示された。

石渡幹夫氏が座長を務めたパネルディスカッションでは、主に以下の意見が挙げられた。

- ・内陸水運の利用を広く促進させるためには、国際協力が不可欠である。
- ・内陸水運の関連インフラを検討する際は、社会配慮が不可欠であり、意思決定の早い段階から各種ステークホルダーの参加を促すべきである。
- ・災害時においては、陸上交通を代替・補完する緊急輸送機能として内陸水運は重要な役割を担う。



パネルディスカッションの様子

## 4. まとめ

「水と交通」セッションでは、内陸水運の発展に向けた以下の宣言文がまとめられた。

- ・他の交通モードとのインターフェースを充実させ、また水資源の提供者、管理者および利用者の新たな関係を支援することにより、内陸水運を最大限に利用した環境に優しい物流体系を実現させる。
- ・発展途上国における内陸水運の利用促進のため開発援助および能力開発を促すとともに、IWTネットワークの更新、国際会議や専門知識の収集を通じて内陸水運を推進する機関の間の情報ネットワークを強化する。
- ・自然災害が深刻化していることを背景に、内陸水運を用いた防災マネジメントを強化するとともに、内陸水運による水辺の活性化を通じて都市再生を図る。

上記の宣言文に従い、具体的な行動を実行するため、また第5回世界水フォーラムにつなぐためにも、関係機関との情報交換を密にし、内陸水運に係る技術、知識等の共有化を推し進める必要がある。